

# 第37回通常総会

日時：平成24年5月24日（木）

会場：JICA地球ひろば（広尾）

社団法人 協力隊を育てる会

## <第1号議案>

# 平成23年度活動報告

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

### <<平成23年度の活動を振り返って>>

昨年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、(社)協力隊を育てる会では東日本大震災「小さなハート基金」を設立、現在も被災地で復興活動を続けている協力隊関係者に支援を続けております。ご協力をいただきました皆様にはあらためて御礼申し上げます。今回の支援活動を通じて多くの団体、個人の方々と新たな交流が生まれました。また、被災地で活動する協力隊経験者は、自らの技術や経験を活かし積極的に活動を展開、あらためて社会からの評価も高まり、私たちが活動の重点として掲げている「協力隊事業の理解を深め支援の輪を広げる」ことの大切さを再確認いたしました。

こうした活動の一環として、我々は全国に仲間を広げる活動を展開しており、今年度は鳥取県と島根県に育てる会を設立、全国の組織化まで残り僅かとなりました。また、誕生して間もない三重県、岡山県ではそれぞれ開発教育全国集会を開催、三重県では鈴鹿国際大学にて途上国からの留学生を含む学生たちとのシンポジウムを、岡山県では社会福祉法人旭川荘名誉顧問の江草安彦氏による講演会を企画、県組織固有のネットワークを活かした独自のイベントとなり、「新たな開発教育」として取り組んできた活動も軌道に乗りつつあります。

本年度、当会は設立35周年を迎え、記念行事として駒ヶ根訓練所視察会を実施、隊員を派遣している企業をはじめ経済界の方々とグローバル人材について意見交換の機会を設けました。他にも年4回の留守家族交流会、年3回地域別の隊員報告会を企画、2月に実施したスリランカスタディツアーでは過去最高の参加人数となり、着実に支援の輪は広がりつつあります。

また、事業仕分けにより協力隊事業の見直しが進められる中、昨年7月には外務省より「政策ペーパー」が発表され、協力隊事業は「草の根の外交」と位置付けられ、「帰国後の支援が重要」との趣旨が示されました。当会では、全国育てる会の事務局長会議に山花郁夫元外務大臣政務官を招いて「政策ペーパー」策定の思いを、そして事業仕分けに対する一連の対応のまとめとして、「新春の集い」に鳩山由紀夫元総理大臣を招いて協力隊事業の価値について語っていただく機会を設け、関係者との情報共有だけでなく様々な分野の方々との意見交換の場を設けました。

公益法人制度改革の対応については、財政面の実情等を考慮し、まずは一般社団となり組織の足腰を強化、形に拘ることなく会員の皆様から賛同いただける組織を目指すことを了承いただき、定款を含む新たな体制作りを進めて参りました。

しかし、長年の懸案となっている財政面の強化については、JICAの受託事業の減少、競争激化の流れの中で抜本的な改革は進まず、もはや一刻の猶予も許されない急務となっています。

以上、本年度のご報告とともに、当会は新たな組織として再出発する重要な節目を迎えており、皆様の更なるご理解と変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## ＜特別活動＞

### 東日本大震災「小さなハート基金」による支援活動

JICA ボランティア、全国の協力隊を育てる会（支援する会）等の関係者からの情報に基づき、被災地での日常生活や施設運営等に支障をきたす具体的な要望に対応するため、東日本大震災「小さなハート基金」を設立し下記の活動を実施した。

資金調達金額	4,562,836円
支援決定金額	3,141,725円
次期繰越金	1,421,111円

#### （１）資金調達状況

団体名	金額(円)	備考
(社)協力隊を育てる会	1,000,000	
全国の育てる会組織	90,000	計 9 組織
UI ゼンセン同盟	1,000,000	会長：落合清四理事
(株) インタラック	500,000	法人会員
(株) VSOC	200,000	法人会員
その他	1,772,836	個人会員等 187 口、イベントでの募金等
合 計	4,562,836	

#### （２）支援決定状況

申請者	所属	支援額(円)	概要	実施期間
藤井 洋治	岩手県青年海外協力隊を育てる会	300,000	仮設住宅入居者の野菜バッグ栽培支援	23年6月27日 ～11月27日
佐藤 真紀 (仁心 OG)	日本イラク医療支援ネットワーク	194,200	福島県の子供たちのサマーキャンプ支援	23年8月9日 ～8月13日
宮 純子 (マレーシア OG)	岩手県国際交流協会	300,000	被災地在住外国人の心のケアと就労支援	23年8月2日 ～8月3日
菅野 芳春 (カナ OG)	協力隊 OV 有志による震災支援の会	300,000	被災住民の自立支援に向けた給食支援	23年3月22日 ～9月30日

宮本 忠則 (スラバカ OB)	(株) モトス 社会貢献部ボランティア	300,000	石巻市仮設住宅および避難所 訪問活動	23年9月12日 ～9月17日
渡邊 恭子 (ヨルダン OG)	ふくしまの笑顔をつなぐ ボランティアグループ“ひらそる”	300,000	子どもたちのためのイベント 開催	23年7月1日 ～24年3月31日
伊藤嘉一 (フィリピン OB)	イピル・イピルの会	253,000	三陸海岸～桜並木ロード～	24年3月10日 ～3月12日
村木 裕俊 (シリア OB)	青森県青年海外協力協会	300,000	ウィンターキャンプ in 青森 for ふくしま kids	24年1月4日 ～1月7日
城野富美子 (マダガスカル OG)	青年海外協力隊栃木県 OB 会	300,000	仮設住宅ニーズアセスメント	23年11月26日 ～24年3月31日
細川光宜 (PNG OB)	青年海外協力隊広島県 OB 会	300,000	カキの養殖筏の再生プロジェ クト～フロート購入～	23年12月10日 ～12月25日
松尾洋子 (インド OG)	なし	294,525	ほまーづプロジェクト ～泥の反物に付加価値を～	24年2月7日 ～2月18日
合 計 (11 件)		3,141,725		

## ＜重点活動＞

### I. 協力隊事業の理解を深め、支援の輪を広げる活動

#### 1. 全国 47 都道府県の組織化とともに既存の組織と連携強化を図る活動

##### (1) 全国 47 都道府県の組織化

全県の組織化を進めており、新たに 2 県で組織が誕生した。

##### 【設立県】

県名	設立月日	組織名および概要
鳥取県 (42番目)	6月25日 (土)	組 織 名：鳥取県協力隊を育てる会 設立総会：鳥取空港国際会館 会 長：八村輝夫（鳥取環境大学理事長）
島根県 (43番目)	7月16日 (土)	組 織 名：島根県青年海外協力隊を育てる会 発 会 式：ホテル一畑 会 長：田部真孝（株式会社田部代表取締役社長）

【未組織県】神奈川県、静岡県、和歌山県、奈良県、京都府

## (2) ブロック懇談会の開催

テーマ：「JICA ボランティア事業の価値を広く社会に伝えるためにすべきこと  
～民間の応援団としての取り組みや課題について～」

### ①東海・北陸・近畿ブロック懇談会（開発教育全国集会と併せて開催）

出席県：三重県、愛知県、岐阜県、福井県、石川県、富山県、滋賀県、兵庫県

日時：7月10日（日）9：30～12：30

場所：高田青少年会館（三重県津市）

概要：従来のスタイルに捉われず3ブロックによる合同開催とした。アーナンダ・クマール 会長（三重県）が進行役となり、現職参加の問題、「クロスロード」の役割、隊員OBによる東北の震災支援、次年度の開発教育開催（富山県）など様々なテーマについて意見交換が行われた。

### ②関東・甲信越ブロック懇談会

出席県：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県

日時：10月15日（土）13：30～16：30

場所：日本青年館（東京都新宿区）

概要：JICA 協力隊事務局の青晴海審議役より、外務省の政策ペーパー発表後のJICAの対応について説明が行われた。また、隊員壮行会の開催方法や機関紙の発行等について意見交換が行われた。

### ③中国・四国ブロック懇談会

出席県：岡山県、広島県、鳥取県、高知県、愛媛県、徳島県

日時：11月6日（日）9：30～12：30

場所：サンビーチ・OKAYAMA（岡山県岡山市）

概要：外務省より政策ペーパーの趣旨説明が行われた。また、会員としての認識を喚起するため、小さなハートプロジェクトや育てる会カレンダーを利用した事例の紹介等が行われた。

## (3) 全国事務局長会議の開催

日時：11月19日（土）～20日（日）

場所：東京グランドホテル（東京都港区）

テーマ：「JICA ボランティア事業の価値を広く社会に伝えるためにすべきこと」  
～民間の応援団としての取り組みや課題について～

参加者：39組織の代表、外務省、青年海外協力隊事務局、当会役員など63名

概要：第1日目

#### ・特別講演

##### ①「政策ペーパーの意義について」

山花郁夫（前外務大臣政務官・民主党衆議院議員）

##### ②「グローバル人材を育てる場としての協力隊事業」

武下悌治（JICA 青年海外協力隊事務局長）

#### ・各県組織による震災復興支援等

##### ①東日本大震災「小さなハート基金」実施報告

宮本忠則（びわ湖 JICA ボランティア応援団事務局長代理）

##### ②震災復興への取り組み

和美宏幸（岩手県協力隊を育てる会副会長兼常任理事）

##### ③県経営者協会との連携

福瀧健一（千葉県海外協力隊を育てる会常任理事兼事務局長）

## 第2日目

- ・各県組織の現況報告  
新潟県、三重県、岡山県、佐賀県の取り組み他

### (4) 既存組織との連携強化

<各県組織の総会等に参加>

青年海外協力隊とちぎ応援団総会	5月14日	青木副会長
北海道青年海外協力隊を育てる会総会	5月21日	奥永事務局長
埼玉国際青年を育てる会総会	5月28日	奥永事務局長
茨城県青年海外協力隊を育てる会総会	5月29日	黒河内参与
協力隊を支援するやまがた地球家族の会総会	6月4日	奥永事務局長
徳島県協力隊を育てる会総会	6月5日	足立会長
福井県青年海外協力隊等を支援する会総会	6月11日	黒河内参与
愛知県青年海外協力隊を支援する会総会	6月12日	足立会長
鹿児島県青年海外協力隊を支援する会総会	6月13日	足立会長
熊本県協力隊を育てる会総会	6月14日	足立会長
地球色の日焼け・あおもり応援団総会	6月18日	青木副会長
岩手県青年海外協力隊を育てる会総会	6月19日	奥永事務局長
広島県協力隊を育てる会総会	6月20日	足立会長
千葉県海外協力隊を育てる会総会	6月25日	奥永事務局長
福島県青年海外協力隊を支援する会総会	6月29日	足立会長
三重県協力隊を育てる会総会	7月9日	大石・伊藤職員
秋田県青年海外協力隊を支援する会総会	7月16日	奥永事務局長
愛媛県青年海外協力隊を育てる会総会・講演会	7月26日	奥永事務局長
高知県協力隊を育てる会総会・三十周年記念講演会	8月21日	足立会長
駒ヶ根訓練所修了式	9月8日	奥永事務局長
千葉県海外協力隊を育てる会家族連絡会	9月11日	奥永事務局長
埼玉国際青年を育てる会壮行会	9月12日	奥永事務局長
長野県青年海外協力隊を育てる会事務局との意見交換	10月6日	伊藤職員
愛知県青年海外協力隊を支援する会理事会	10月21日	足立会長
長野県副知事、県育てる会表敬訪問	11月9日	足立会長・伊藤職員
長野県ボランティア家族連絡会	11月14日	菊池職員
JICA 海外ボランティアひょうご応援団運営委員会	11月25日	伊藤職員
JICA 海外ボランティアひょうご応援団運営委員会	1月13日	伊藤職員
愛知県青年海外協力隊を支援する会理事会	1月14日	伊藤職員
山梨県ボランティア家族連絡会	1月21日	平野職員
静岡県ボランティア家族連絡会	2月19日	奥永事務局長

北海道青年海外協力隊を育てる会理事会	3月3日	伊藤職員
二本松訓練所修了式	3月10日	奥永事務局長
山梨県青年海外協力隊を育てる会壮行会	3月13日	奥永事務局長
埼玉国際青年を育てる会壮行会	3月13日	菊池職員

(5) 各県組織の主な変更

<組織名>

広島県協力隊を育てる会 → 広島県青年海外協力隊を育てる会

<会長>

岩手県青年海外協力隊を育てる会	海妻矩彦	→	梅原愛雄
(特活) 山梨県青年海外協力隊を育てる会	梅沢重雄	→	山田一功
徳島県協力隊を育てる会	西川政善	→	井上俊吾
香川県青年海外協力隊を育てる会	綾田修作	→	竹崎克彦

<事務局長>

徳島県協力隊を育てる会	太田光俊	→	辻登志江
岐阜県青年海外協力隊を支援する会	多田 弘	→	加藤 正
JICA 海外ボランティアひょうご応援団	高橋敬三	→	前林清和

(6) 活動助成金の支給

助 成 額：1組織につき上限80,000円を給付

対 象 枠：①会員拡大活動

②協力隊に参加し易くその経験を地域に活かす社会環境整備（現職参加促進等）

③広報・啓発活動

給付件数：39組織

給付金額：3,076,240円（年賀広告費・カレンダー購入費との相殺あり）

## 2. 会員の拡大

①会員数

	平成 23 年 (3 月末)	平成 24 年 3 月 31 日現在			合計
		入会	退会	県組織へ移行	
個人	1,012 名	115 名	225 名	18 名	884 名
法人	51 法人	0 法人	10 法人	—	41 法人
団体	76 団体	30 団体	9 団体	—	97 団体

《備考》

- ・個人会員：隊員の任期終了に伴う家族の退会、高齢化に伴う長期会員の退会など、入会数を上回る減少傾向が続いている。
- ・法人会員：会費未納入の企業を退会としたため減少した。
- ・団体会員：「クロスロード」誌を希望する大学図書館を中心に増大した。

②会員拡大の取り組み

個人会員の勧誘

対象	目標	対策	結果
隊員家族	160名	家族交流会の開催（年4回）	87名 （達成率54.3%）
帰国隊員	40名	各種奨学金受給者や現職参加者を中心に、帰国時オリエンテーションまたは支援申請時における広報の強化	4名 （達成率10%）
一般	50名	地域別交流会の開催（年3回）	24名 （達成率48%）

法人・団体の入会勧誘

対象	目標	対策	結果
JICAサポーター宣言企業 （12法人に訪問）	新規 2法人 2団体	当会広報媒体への広告記事掲載の提案	0
現職参加・CSR活動に積極的な企業・団体 （10法人・団体訪問）		当会広報媒体への広告記事掲載の提案	0
小さなハートプロジェクト支援企業・団体 （5法人・団体訪問）		プロジェクトの実施内容、成果、意義等の報告及び広報	0
カレンダー購入者 （5法人・団体訪問）		当会広報媒体への広告記事掲載の提案	0
「クロスロード」定期購読からの移行		DM発送などによる広報	27
役員の紹介		リーフレット、広報媒体の改訂	1
新設の県組織		—	2

### 3) 既存会員の継続勧誘

対象	目標	結果（新規入会除く）
個人会員	470人	455人（目標達成率97%）
法人会員	51法人	41法人（目標達成率80%）
団体会員	76団体	67団体（目標達成率88%）

## 3. 青年海外協力隊の理解促進

### (1) 開発教育全国集会

#### ①第20回開発教育全国集会 in 三重「日本の国際協力と青年海外協力隊」

日 時：7月9日（土）13：30～17：00

場 所：鈴鹿国際大学

参加者：約130名

#### <第1部>

基調講演 「国際協力は今なぜ必要なのか」

講師：青晴海（JICA 青年海外協力隊事務局審議役）

「環境問題に取り組む青年海外協力隊員」

講師：白山肇（大東文化大学環境創造学部教授）

#### <第2部>

分科会 1. 途上国の環境問題、なぜポイ捨てをするのだろうか？

講師：河辺陽子（スリランカ OG）

2. 途上国の学校から学ぶもの

講師：伊藤大輔（スリランカ OB）

3. 途上国の農村開発、貧困からの脱出～グラミン銀行の事例から

講師：伊東早苗（名古屋大学大学院准教授）

4. 保健医療現場での国際協力

講師：橋本秀実（セネガル OG）

#### <第3部>

分科会発表会・討論会（司会：アーナンダ・クマーラ）

#### ②第21回開発教育全国集会 in 岡山「国際協力を目指した岡山の若者たち

～次世代を担う青年海外協力隊～」

日 時：11月5日（土）14：00～17：00

場 所：サンビーチ OKAYAMA

参加者：約110名

#### <第1部>

基調講演 「社会福祉の現場から国際協力へ ～青年海外協力隊に期待するもの～」

講師：江草安彦（社会福祉法人旭川荘名誉理事長）

<第2部>

帰国報告とディスカッション

司会：小池将文（川崎医療福祉大学教授）

パネリスト：塩飽康利（エチオピア OB）

谷 智仁（ラオス OB）

黒明堅一郎（ケニア OB）

(2) 協力隊活動現地視察の旅

	目標	結果
企 画	JICA が承認する全派遣国	48 ケ国
実 施	48 ケ国	20 ケ国
参加者	200 名	113 名

<<備考>>

①東日本大震災の影響により旅行を自粛する家族が多く、参加者が大幅に減少した。

※平成 22 年度は 191 名が参加

②中東、北・西アフリカ諸国の民主化運動（アラブの春）の影響により隊員が一時退避した国が多く、企画中止国が相次いだ。

③日本各地から直行便が運航しているアジア等近隣国での企画は見送る一方、旅行催行人数に満たない国でも申込者の希望があれば、安心して訪問していただけるようきめ細やかな対応に心がけた。

(3) スタディツアー

三重県協力隊を育てる会のアーナンダ・クマーラ会長（スリランカ出身）に同行いただき、過去最高となる参加者となった。各県の育てる会役員を始め、隊員留守家族、進路相談カウンセラー、三重県の農業団体等も加わり幅広い参加となった。

視察国：スリランカ

実 施：平成 24 年 2 月 15 日～23 日

参加者：33 名

(4) 協力隊を育てる会ニュース

・主な記事

月号	国際協力時評	主な記事
4 月	—	東北 3 県の被災状況
5 月	須佐喜夫（福島県支援する会会長）	育てる会関係者による被災地支援
6 月	井上俊吾（徳島県育てる会会長）	第 36 回通常総会
7 月	八村輝夫（鳥取県育てる会会長）	鳥取県設立総会
8 月	田部真孝（島根県育てる会会長）	島根県設立発会式／外務省政策ペーパー
9 月	小路克雄（JICA 参加促進進路支援課長）	留守家族交流会／徳島県使節委嘱

10月	伊藤隆文（前青年海外協力隊事務局長）	足立会長の JICA 表彰を祝う会
11月	武下悌治（新青年海外協力隊事務局長）	帰国隊員支援プロジェクト合格発表
12月	青木伸吾（アキトワーク代表取締役）	全国事務局長会議、岡山特別講演
1月	—	新春インタビュー（道傳愛子）
2月	—	新春の集い
3月	前林清和（新ひょうご応援団運営委員長）	スリランカスタディツアー

・広告料収入

	目標	結果
収入	500 万円	約 520 万円

新規広告掲載団体：パークレーハウス語学センター、日本福祉大学

(5) 協力隊を育てる会カレンダー

隊員、関係者から写真を公募、日本を元気にするような「輝く笑顔」、「絆～つながる」、「挑戦～頑張る」などをテーマに 15,000 部を作成。

販売種別	販売数（部）
各県組織	4,805
一般（名入り）	3,650
一般（名無し）	6,312
合計	14,767 (売上約 559 万円)

《備考》

昨年に引き続き、(株)国際サービス・エージェンシーの支援を受け新宿区内の全中学生と小学校全クラスに約 3,000 部を配布した。

(6) イベントの開催

①協力隊を育てる会家族交流会

派遣直後の隊員の家族を対象に、現地 JICA 事務所や帰国後のサポート体制、「視察の旅」等の育てる会の事業を説明し、家族の心配や疑問に答える機会を設け会員勧誘に努めた。

	日時・会場	参加者数（名）	入会者数（名）※
第1回	6月25日（土）JICA地球ひろば	33	5
第2回	9月17日（土）JICA地球ひろば	17	1
第3回	11月26日（土）JICA地球ひろば	22	1

第4回	3月17日（土）JICA地球ひろば	18	1
-----	-------------------	----	---

※開催日当日の入会者数

②一般会員や市民を対象としたイベントの企画（エリア別帰国隊員報告会）

広く市民に青年海外協力隊事業を周知するため、帰国隊員にアフリカや中南米などの国の魅力を語っていただき、視察の旅やスタディツアーの広報の場とした。尚、今イベントには留守家族、大学生がボランティアスタッフとして参加した。

	日時・会場	参加者数（名）	入会者数（名）※
第1回 （アフリカ）	8月21日（土）JICA地球ひろば	42	1
第2回 （アジア）	12月17日（土）JICA地球ひろば	23	0
第3回 （中南米）	1月29日（土）JICA地球ひろば	30	0

※開催日当日の入会者数

③JICA 駒ヶ根訓練所視察会（育てる会設立 35 周年記念事業）

日 時：11月8日（火）～9日（水）

参加者：30名（会員、隊員の現職派遣企業、千葉県育てる会役員、学生等）

- ・1日目～訓練所視察（語学訓練体験）、隊員との交流、夕食懇談会  
特別講演 「企業が求めるグローバル人材と協力隊」  
講師：池口良明（イーキュア株式会社代表取締役）
- ・2日目～訓練所「朝の集い」、伊那食品工業かてんばば工場視察、光前寺見学

④平成24年「新春の集い」

日 時：平成24年1月25日（水）

会 場：JICA地球ひろば

参加者：演奏会141名、講演会190名、交流会120名

内 容：第1部 邦楽演奏会（吉岡龍見、吉岡龍之介、吉岡景子、吉岡あき子）

第2部 講演会「青年海外協力隊の評価と意義

～友愛精神を踏まえて協力隊を育てる会への期待～

講師：鳩山由紀夫（民主党衆議院議員／元内閣総理大臣）

第3部 交流会

（7）国際協力等関係イベントへの参加

①「グローバルフェスタ JAPAN2011」

日 時：10月1日（土）～2日（日）

場 所：日比谷公園

内 容：途上国を知るためのクイズ、隊員 OBOG によるフェアトレード商品の紹介など

②「協力隊まつり」は東日本大震災のため中止

(8) 第5回チャリティーゴルフ大会

「高木守道&小さなハートチャリティーゴルフ大会 in ぎふ美濃」の共催  
日 時：10月18日（火）  
場 所：ぎふ美濃ゴルフ倶楽部  
共 催：全日本自動車産業労働組合総連合会愛知地方協議会  
参加者：36組136名  
寄付金：649,530円（東日本大震災「小さなハート基金」に活用予定）

#### 4. 青年海外協力隊への支援活動

(1) 現職参加の促進

①現職参加の相談業務

協力隊2次選考試験時において、制度の詳細、所属先との交渉方法等、過去の事例を踏まえて  
応対し、相談内容を報告書にまとめJICAへ提出した。

募集時期	実施期間	相談数（件）
春募集	8月1日～9日	82
秋募集	1月5日～19日	77

②現職参加調査業務

過去2年以内に帰国した現職参加者及び所属先に対してインタビューを実施。現職参加を認め  
た背景、帰国後の評価などをまとめJICAに報告書を提出した。

実施日	企業名
6月30日	遼東化学工業株式会社
7月13日	株式会社プロフェッショナルバンク
7月13日	株式会社ディーバ
12月26日	株式会社文化財保存計画協会
2月21日	学校法人明星学園中学校・高等学校
2月29日	株式会社アグレックス
3月13日	株式会社EWMジャパン
3月21日	KDDI株式会社

③現職参加啓発業務

グローバル人材を求める企業や企業経営者等の会合に参加し、制度の説明や人材リソースとし  
ての事例紹介等を実施した。

実施日	対象企業・会合名等
6月20日	国際石油開発帝石株式会社
5月12日	住友化学株式会社
9月16日	中半産業株式会社
11月4日	全日産・一般業種労働組合連合会 ライフサポート研修
11月24日	四天王寺病院
1月19～21日	公益社団法人日本青年会議所 京都会議
2月9日	社団法人石川県経営者協会 会員懇談会
3月24日	にいがた青年海外協力隊を育てる会特別講演会

(2) 小さなハートプロジェクト

申請件数12件、送金件数10件

No	名前	職種	出身	国名	プロジェクト名称	支援額(円)	支援者
1	米田 勇太	理数科教師	奈良	ラオス	かんづめ教室を快適に！	213,000	・全国電力関連産業労働組合総連合
2	大野 裕平	村落開発普及員	静岡	PNG	子供達の人生を大きく変えた波乗りにお力を貸してください！	265,500	・全国電力関連産業労働組合総連合
3	石村 文	村落開発普及員	山口	ケニア	布ナプキンを普及するTek-twenyo女性グループ支援による女学生の健康と命を守るプロジェクト	58,158	・山口県協力隊を育てる会
4	井上 和彦	村落開発普及員	埼玉	カメルーン	ズィマ村南東部水源整備プロジェクト～ L'eau, c'est la vie～	212,400	・全国電力関連産業労働組合総連合 ・埼玉国際青年を育てる会 ・足利市社会福祉協議会 ・足利ボランティア協会
5	岩根 育枝	保健師	島根	ネパール	過疎の村の女性グループ活動拠点の場へ、トイレと水道を!!!	116,084	・駒ヶ根協力隊を育てる会

6	山下 千夏	PCインストラクター	愛知	ネパール	ネパールの聴覚障がい児に安全と情報保障を!	268,200	・愛知県青年海外協力隊を支援する会 ・杉山道生 ・石川県立金沢二水高等学校生徒会
7	上原 誠子	エイズ対策	香川	セネガル	HIV検査施設のカウンセリングルーム及び検査室の修理・改善プロジェクト	195,300	・香川県青年海外協力隊を育てる会 ・半田貴基
8	松野 岳水	野球	東京	コスタリカ	「聖書の家ロブレアルト特別学校」野球場兼プレイグラウンド造成工事	270,000	・高木守道と小さなハートチャリティゴルフ大会
9	仲井眞美幸	行政サービス	沖縄	ボリビア	コロニア・オキナワ高齢者サービス活性化プロジェクト	266,769	沖縄県青年海外協力隊を支援する会
10	南 裕子	村落開発普及員	福岡	ネパール	崖に面した小学校のグラウンドに柵と門の建設プロジェクト～みんなグラウンドで駆け回ろうよ!!～	—	公募中
11	柳川 優人	村落開発普及員	東京	モザンビーク	識字教員養成学校、水道設置プロジェクト	270,000	株式会社国際協力データサービス
12	近藤 裕子	村落開発普及員	岡山	カメルーン	学校を知らない子ども達に学びの場を」プロジェクト	—	公募中
合計						2,135,411	

### (3) 帰国隊員・青年支援プロジェクト

支援団体：公益財団法人三菱UFJ国際財団

募集期間：平成23年7月1日～8月31日

申請件数：21件（協力活動3件、調査研究18件）

合格者数：8件（協力活動2件、調査研究6件）

支援総額：270万円（1件につき上限50万円）

選考会：10月25日（火）

選考委員：青木副会長、小川理事、白山理事、小久保参与、中村監事

武下悌治 JICA 青年海外協力隊事務局長、多賀英明三菱UFJ国際財団専務理事

協力活動 2 名

No	名前	派遣国/職種	隊次	活動地域	プロジェクト名称	支援額(円)
1	森田佳奈子	ドミニカ共和国 村落開発普及員	19-3	ハイチ	「ハイチ感染症における人材育成プログラム」	500,000
2	吉田 千穂	ブルキナファソ 視聴覚教育	17-3	カンボジア	シエムリアップの農村地域における小学校図書プロジェクト～日本人・カンボジア人によるハード・ソフト支援～	280,000

調査・研究 6 名

No	名前	派遣国/職種	隊次	活動地域	プロジェクト名称	支援額(円)
1	長谷川直美	ブルキナファソ 公衆衛生	14-2	ブルキナファソ	マラリアの自己治療に関する医療人類学的研究	380,000
2	小村 陽平	ニジェール 村落開発普及員	21-1	ニジェール	ニジェール東部における砂漠化対処と地域開発支援に関する研究	380,000
3	図司 令子	ホンジュラス 青少年活動	17-1	フィリピン	マニラ首都圏貧困地域における保健ボランティアの活動に影響を及ぼす要因に関する調査研究	300,000
4	中沢美保子	タンザニア 村落開発普及員	17-1	タンザニア	遺児の社会経済的状況と教育への影響に関する調査・研究ータンザニアの大都市低所得地帯と地方都市を事例に	380,000
5	森口友香子	セネガル 村落開発普及員	18-1	セネガル	農村社会における相互扶助ネットワークの変容ーセネガルにおけるマラブーと農民の関係性から	180,000
6	森下 福史	PNG 感染症対策	18-3	フィリピン	WHO西太平洋地域における結核対策アプローチ(Active TB Case Finding)	300,000

※公益財団法人三菱UFJ国際財団の多賀英明専務と受給者との面談を順次実施中

(4) 馬場医療・福祉奨学金

支援予定：2 件（50 万円×2 名）

募集期間：平成 23 年 6 月 1 日～8 月 31 日

申請件数：なし

返済状況：20 年度受給者 2 名分計 87 万円が返済完了、21 年度受給者 1 名の返済開始

## 5. 海外ボランティア事業の政策見直し

ODA 予算の削減傾向と行政刷新会議の事業仕分けでの指摘を受け、外務省では国民、NGO、経済界等から広く意見を集め、青年海外協力隊を中心とする海外ボランティア事業の意義を明確にするため「政策ペーパー」を策定して発表した。これに伴い JICA では、外部有識者による「JICA ボランティア事業のあり方検討委員会」を 5 回にわたり開催、JICA ボランティア事業の改善点を取りまとめた。

### (1) 外務省の動き

山花郁夫外務大臣政務官による意見交換と政策ペーパーの発表

#### ①福岡市での取組み 6月26日(日)

東日本大震災の被災地で活動した帰国隊員の報告会に山花政務官(当時)が参加、市民、学生、NGO等と海外ボランティア事業のあり方について意見交換を行った他、九州の経済界の代表者にボランティア参加の環境整備を要請。

#### ②北海道での取組み 7月24日(日)～25日(月)

東日本大震災で中止された下記会合を再企画、外務省の要請を受け足立房夫会長も同席。

「青年海外協力隊OB会、北海道育てる会、及びJICA関係者との夕食会」

日 時：7月24日(日) 19:00～21:30

場 所：京王プラザホテル札幌

参加者：山花郁夫(外務大臣政務官)、佐藤勝(外務省事業管理室室長)、足立会長、南部悟(北海道育てる会会長)、荻野京子(同事務局長)、山口猛彦(北海道OB会会長)など11名

「これからの青年海外協力隊を考える」(公開セミナー)

日 時：7月25日(月) 10:30～12:00

場 所：札幌国際ビル会議場

内 容：青年海外協力隊について・外務省新政策ペーパーの発表・帰国隊員の震災支援活動報告

参加者：北海道庁、札幌市役所、道内経営者団体、一般等約70名

「北海道経済界関係者との昼食懇談会」

日 時：7月25日(月) 12:30～13:40

場 所：JRタワーホテル日航札幌

内 容：新政策ペーパーの説明・現職参加及び帰国後採用など人材リソースの理解促進

参加者：山花郁夫(外務大臣政務官)、佐藤勝(外務省事業管理室室長)、足立会長、栗原勝憲(北海道経営者協会専務理事)、大嶋政實(同中小企業団体中央会専務理事)、高田敏春(札幌商工会議所常務理事)ほか、道内4企業の経営者など12名

### (2) JICA の動き

「JICA ボランティア事業のあり方検討委員会」

検討委員会委員 内海成治(大阪大学名誉教授、国際ボランティア学会長)

野坂雅一（読売新聞論説副委員長）  
星野昌子（日本国際ボランティアセンター特別顧問）  
水野達男（住友化学株式会社ベクターコントロール事業部長）  
横尾賢一郎（社団法人日本経済団体連合会国際協力本部長）  
伊藤隆文（JICA 青年海外協力隊事務局長）

- 第1回（平成23年2月23日）：ボランティア事業の現状と課題  
第2回（3月31日）：事業実施の方向性  
第3回（5月10日）：事業実施の方向性  
第4回（6月9日）：具体的改善の方向性  
第5回（7月6日）：取り纏め（当会の活動説明のため足立会長が出席）

検討結果概要の発表

公開セミナー「世界と日本の未来を創るボランティア」～JICA ボランティア事業実施の方向性～  
日 時：8月30日（火）  
場 所：JICA 本部

## Ⅱ. 公益法人制度改革への対応

第36回通常総会（5月25日）にて一般社団法人への移行を決議し、手続きに係る諸準備を下記のとおり行った。

- ①会計基準の移行 → 平成23年度第1回理事会（5月11日）において平成16年度基準会計から平成20年度基準会計に移行  
②新定款原案作成 → 平成23年度第3回理事会（12月21日）、第4回理事会（3月23日）にて協議

## Ⅲ. 財政基盤の強化

（1）平成22年度の決算後、資産額が増加したものの内部留保額も40.7%から51.6%に増加。外務省より説明を求められた。

（2）JICA 受託事業の公示案件に入札し、一部を落札した。

・「クロスロード」編集・発行業務の競争入札

11月10日 公示

12月5日 技術提案書・入札書を提出

12月26日 開札→当会が落札（落札価格181,418,778円／3年契約）

※前年度比－5,424,227円

・昨年までの「JICA ボランティア等帰国隊員支援業務」が二つの業務に分かれて公示

- ①JICA ボランティア帰国時プログラム実施支援業務
- ②JICA ボランティア帰国後事務手続業務

1月5日 公示  
2月3日 技術提案書・入札書を提出  
2月21日 開札  
①帰国時プログラム→株式会社パソナが落札  
②帰国後事務手続→当会が落札（落札価格 48,943,101 円／3 年契約）  
※前年度比－31,913,902 円

## ＜一般活動＞

### 1. 組織の運営と強化

#### (1) 会議等の開催

##### ①第 36 回通常総会

5月25日（水） 於日本青年館  
（平成 22 年度事業・決算報告、平成 23 年度事業計画、一般社団法人移行について承認）

第 1 部 通常総会

第 2 部 報告会「東日本大震災の被災地から」

- ・「JICA と JICA ボランティアの支援状況」  
北野一人（JICA 青年海外協力隊事務局次長）
- ・「宮城県は今」  
富樫千之（宮城県青年海外協力隊を支援する会副会長）
- ・「協力隊経験はどう活かされているか」  
佐藤彩子（モンゴル OG）

##### ②理事会

第 1 回理事会 5月11日

第 2 回理事会 9月28日

第 3 回理事会 12月21日

第 4 回理事会 3月23日

##### ③常任理事会

第 1 回 4月22日 第 2 回 5月18日 第 3 回 6月15日 第 4 回 7月20日

第 5 回 9月14日 第 6 回 11月16日 第 7 回 12月14日 第 8 回 1月25日

第 9 回 2月13日 第 10 回 3月14日 （臨時 3月7日）

##### ④委員会

支援・事業委員会 第 1 回 6月13日 第 2 回 12月9日 第 3 回 3月5日

(2) 慶弔

- ・春の叙勲 瑞宝中綬章 海妻矩彦 (岩手県青年海外協力隊を育てる会前会長)  
瑞宝小綬章 大塚忠寿 (石川県青年海外協力隊を支援する会専務理事)
- ・秋の叙勲 瑞宝双光章 土井章弘 (岡山県協力隊を育てる会理事)  
黄綬褒章 北川義信 (石川県青年海外協力隊を支援する会会長)
- ・JICA 理事長表彰 足立房夫 (社団法人協力隊を育てる会会長)  
10月4日 足立会長のJICA 理事長表彰を祝う会を実施  
於日本青年館 参加者約90名
- ・物故隊員献花式  
日 時：10月4日 (火)  
場 所：JICA 地球ひろば・JICA 研究所 (市ヶ谷)
- ・逝去 故中村信吾 (地球色の日焼け・あおもり応援団副団長)  
<5月9日 脳血栓のため 73歳>  
故高橋敬三 (JICA 海外ボランティアひょうご応援団運営委員長)  
<10月23日 食道ガンのため 64歳>  
故小久保茂昭 (社団法人協力隊を育てる会参与)  
<2月17日 心不全のため 70歳>

(3) 賞与

7月15日 12月15日

(4) 人事

採用

中鉢 友子	(4月1日)	帰国隊員支援業務、臨時職員→7月より嘱託職員に登用
山本 祐司	(4月1日)	同上
林 裕美	(4月26日)	経理補助、臨時職員
青木 杏里	(8月1日)	視察の旅他業務補助、臨時職員→11月より嘱託職員に登用
阿子島文子	(10月18日)	総務課補助、臨時職員
佐々木香奈	(11月1日)	クロスロード編集室、嘱託職員
橋本 正隆	(1月23日)	帰国隊員支援業務、臨時職員
伊東 陽子	(3月19日)	クロスロード編集室、嘱託職員

#### 退職・解嘱

岩田 恵美	(6月30日)	経理、臨時職員
丸山 真穂	(11月30日)	クロスロード編集室 嘱託職員
奥永眞智子	(12月31日)	事務局長 12月末で定年→1月より嘱託職員として契約
阿子島文子	(1月25日)	総務課補助、臨時職員
上田 由香	(3月19日)	帰国隊員支援業務 嘱託職員
山本 祐司	(3月31日)	帰国隊員支援業務 嘱託職員

#### (5) プライバシーマークの更新

- ・プライバシーマーク付与適格性更新審査の実施 (8月30日)
- ・改善報告書の提出 (11月16日)
- ・付与適格決定 (1月20日)
- ・登録番号 第10861475【03】号
- ・有効期間 平成23年10月3日～平成25年10月2日

#### (6) その他

- ①大村会計事務所との契約解消 (6月末) → 創新会計事務所との顧問契約を締結 (8月1日)
- ②投資有価証券 (2千万円) を銀行の定期預金 (三井住友銀行、りそな銀行) に移行 (第3回理事会にて決議)
- ③3月末で広尾事務所の賃貸契約が終了予定 → 次年度の7月末まで契約を延長

以上

<第2号議案>

平成23年度決算報告  
貸借対照表総括表  
平成24年3月31日現在

(単位:円)

科 目	一 般 会 計	自主事業会計	受託事業会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	27,505,548	4,566,220	10,705,684	0	42,777,452
未収金	252,500	3,037,980	31,282,637	0	34,573,117
出版物等	34,621	47,447	0	0	82,068
立替金	144,942	0	0	0	144,942
内部取引	20,179,224	△ 231,000	0	△ 19,948,224	0
流動資産合計	48,116,835	7,420,647	41,988,321	△ 19,948,224	77,577,579
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
定期預金	20,000,000	0	0	0	20,000,000
基本財産合計	20,000,000	0	0	0	20,000,000
(2) 特定資産					
奨学貸付引当資産	6,933,749	0	0	0	6,933,749
特定資産合計	6,933,749	0	0	0	6,933,749
(3) その他固定資産					
奨学貸付金	1,066,251	0	0	0	1,066,251
その他固定資産合計	1,066,251	0	0	0	1,066,251
固定資産合計	28,000,000	0	0	0	28,000,000
資産合計	76,116,835	7,420,647	41,988,321	△ 19,948,224	105,577,579
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	3,783,192	355,105	3,151,860	0	7,290,157
前受金	5,602,516	0	0	0	5,602,516
預り金	2,824,965	81,916	66,645	0	2,973,526
仮受金	10,000	0	0	0	10,000
内部取引	2,158,673	4,314,437	13,475,114	△ 19,948,224	0
流動負債合計	14,379,346	4,751,458	16,693,619	△ 19,948,224	15,876,199
負債合計	14,379,346	4,751,458	16,693,619	△ 19,948,224	15,876,199
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産	0	0	0	0	0
指定正味財産合計	0	0	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	0	0	0	0	0
2. 一般正味財産	61,737,489	2,669,189	25,294,702	0	89,701,380
(うち基本財産への充当額)	20,000,000	0	0	0	20,000,000
(うち特定資産への充当額)	6,933,749	0	0	0	6,933,749
正味財産合計	61,737,489	2,669,189	25,294,702	0	89,701,380
負債及び正味財産合計	76,116,835	7,420,647	41,988,321	△ 19,948,224	105,577,579

(注) 各会計相互間の貸借勘定期末残高は、合計欄では貸借相殺している。

## 正味財産増減計算書総括表

(平成 23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	一 般 会 計	自 主 事 業 会 計	受 託 事 業 会 計	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
経常収益				
(1) 基本財産運用益				
基本財産受取利息	17,848	0	0	17,848
(2) 受取入会金				
入会金収入	112,000	0	0	112,000
(3) 受取会費				0
個人会員会費	4,051,863	0	0	4,051,863
団体会員会費	1,395,000	0	0	1,395,000
法人会員会費	1,420,000	0	0	1,420,000
(4) 事業収益				0
事業収益	6,722,130	17,250,024	118,181,914	142,154,068
(5) 受取補助金等				
助成金収入	3,000,000	0	0	3,000,000
(6) 受取寄付金				
寄付金収入	4,527,877	0	0	4,527,877
(7) 雑収入				
受取利息	4,080	1,254	3,446	8,780
経常収益計	21,250,798	17,251,278	118,185,360	156,687,436
経常費用				
(1) 事業費	20,030,809	6,901,011	76,408,973	103,340,793
(2) 管理費	10,636,205	12,228,596	24,208,133	47,072,934
経常費用計	30,667,014	19,129,607	100,617,106	150,413,727
当期経常増減額	△ 9,416,216	△ 1,878,329	17,568,254	6,273,709
税引前一般正味財産増減額	△ 9,416,216	△ 1,878,329	17,568,254	6,273,709
法人税等			2,889,800	2,889,800
当期一般正味財産増減額	△ 9,416,216	△ 1,878,329	14,678,454	3,383,909
一般正味財産期首残高	71,153,705	4,547,518	10,616,248	86,317,471
一般正味財産期末残高	61,737,489	2,669,189	25,294,702	89,701,380
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	61,737,489	2,669,189	25,294,702	89,701,380

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法によっています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産有価証券	20,020,900	0	20,020,900	0
基本定期りそな東京公務部	0	10,000,000	0	10,000,000
基本定期三井住友広尾	0	10,000,000	0	10,000,000
小 計	20,020,900	20,000,000	20,020,900	20,000,000
特定資産				
奨学貸付引当資産	6,436,790	496,959	0	6,933,749
小 計	6,436,790	496,959	0	6,933,749
合 計	26,457,690	20,496,959	20,020,900	26,933,749

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
基本定期りそな東京公務部	10,000,000	(0)	(10,000,000)	
基本定期三井住友広尾	10,000,000	(0)	(10,000,000)	
小 計	20,000,000	(0)	(20,000,000)	
特定資産				
奨学貸付引当資産	6,933,749	(6,933,749)	(0)	(0)
小 計	6,933,749	(6,933,749)	(0)	(0)
合 計	26,933,749	(6,933,749)	(20,000,000)	(0)

### 4. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
助成金	三菱UFJ国際財団		3,000,000	3,000,000	0	-
合 計		0	3,000,000	3,000,000	0	

# 財 産 目 録

平成24年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	金 額	金 額
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	(42,777,452)		
手許現金	703,395		
みずほ銀行広尾支店 1128217	5,147,238		
みずほ銀行青山支店 1186895	2,544,822		
みずほ銀行青山支店 1849711	288,516		
みずほ銀行青山支店 1874910	201,970		
みずほ銀行丸の内中央支店 1988855	5,000,996		
みずほ銀行丸の内中央支店 3255632	50,777		
みずほ銀行六本木支店 1072103	103,728		
三菱東京UFJ銀行新宿中央支店 221619	3,414,543		
三菱東京UFJ銀行新宿中央支店 490881	957,877		
三菱東京UFJ銀行新宿中央支店 5311561	10,340,148		
三菱東京UFJ銀行広尾支店 1326566	1,054		
ゆうちょ銀行総合口座 10160-54403361	1,257,428		
ゆうちょ銀行振替口座 00180-2-82617	8,779,697		
ゆうちょ銀行振替口座 00100-3-65547	348,124		
ゆうちょ銀行振替口座 00130-7-639309	1,196,983		
ゆうちょ銀行振替口座 00110-9-50059	2,440,156		
未収金	(34,573,117)		
広告収入 2件	157,500		
入会金収入 1件	5,000		
団体会費 9件	90,000		
クロスロード発送手数料収入24組織	2,674,080		
視察の旅発送手数料 RHTトラベラー(株)	22,600		
視察の旅研修会費収入 (株)国際サービス・エージェンシー	341,300		
帰国隊員等支援受託収入立替金 国際協力機構	14,298,788		
編集業務受託収入立替金 国際協力機構	16,745,409		
クロス発送作業受託収入立替金 国際協力機構	238,440		
出版物等	(82,068)		
郵便切手	34,621		
「青年海外協力隊誕生から成熟へ」新版 10冊	11,550		
「海を越えるボランティア先生」 66冊	35,897		
立替金	(144,942)		
地方総会資料発送代行JICA海外ボランティアひょうご応援団	9,771		
地方総会資料発送代行岡山県協力隊を育てる会	10,511		
開発教育全国集会講師料岡山県協力隊を育てる会	124,660		
流動資産合計		77,577,579	
<b>2. 固定資産</b>			
(1)基本財産			
定期預金りそな銀行東京公務部支店 3067202	10,000,000		
定期預金三井住友銀行広尾支店 00044750	10,000,000		
基本財産合計	20,000,000		
(2)特定資産			
奨学貸付引当資産 三菱東京UFJ銀行広尾支店	6,933,749		
特定資産合計	6,933,749		
(3)その他固定資産			
奨学貸付金	1,066,251		
その他固定資産合計	1,066,251		
固定資産合計		28,000,000	
資産合計			105,577,579



## 収支計算書総括表

(平成 23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:円)

	一般会計	自主事業会計	受託事業会計	合計
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
(1)基本財産運用益				
基本財産受取利息	17,848	0	0	17,848
(2)入会金収入				
入会金収入	112,000	0	0	112,000
(3)会費収入				
個人会員会費収入	4,051,863	0	0	4,051,863
団体会員会費収入	1,395,000	0	0	1,395,000
法人会員会費収入	1,420,000	0	0	1,420,000
(4)事業収入				
事業収入	6,722,130	17,250,024	118,181,914	142,154,068
(5)補助金等収入				
助成金収入	3,000,000	0	0	3,000,000
(6)寄付金収入				
寄付金収入	4,527,877	0	0	4,527,877
(7)雑収入				
受取利息収入	4,080	1,254	3,446	8,780
事業活動収入計	21,250,798	17,251,278	118,185,360	156,687,436
2. 事業活動支出				
(1)事業費	20,030,809	6,901,011	76,408,973	103,340,793
(2)管理費	10,636,205	12,228,596	24,208,133	47,072,934
法人税及び住民税			2,889,800	2,889,800
事業活動支出計	30,667,014	19,129,607	103,506,906	153,303,527
事業活動収支差額	△ 9,416,216	△ 1,878,329	14,678,454	3,383,909
<b>II 投資活動収支の部</b>				
1. 投資活動収入				
(1)基本財産取崩収入				
基財投資有価証券売却収入	20,020,900	0	0	20,020,900
(2)奨学貸付金戻り収入				
奨学貸付金戻り収入	496,959	0	0	496,959
投資活動収入計	20,517,859	0	0	20,517,859
2. 投資活動支出				
(1)基本財産取得支出				
基財投資有価証券支出	20,000,000	0	0	20,000,000
(2)特定資産取得支出				
奨学貸付引当資産取得支出	496,959	0	0	496,959
投資活動支出計	20,496,959	0	0	20,496,959
投資活動収支差額	20,900	0	0	20,900
<b>III 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
(1)その他財務活動収入				
その他財務活動収入	107,078,470	16,750,163	78,766,477	202,595,110
財務活動収入計	107,078,470	16,750,163	78,766,477	202,595,110
2. 財務活動支出				
(1)その他財務活動支出				
その他財務活動支出	91,438,815	15,858,627	95,297,668	202,595,110
財務活動支出計	91,438,815	15,858,627	95,297,668	202,595,110
財務活動収支差額	15,639,655	891,536	△ 16,531,191	0
当期収支差額	6,244,339	△ 986,793	△ 1,852,737	3,404,809
前期繰越収支差額	43,992,686	3,687,637	10,616,248	58,296,571
次期繰越収支差額	50,237,025	2,700,844	8,763,511	61,701,380

(注) 1. 借入金限度額 0円

(注) 1. 債務負担額 0円

## 監査報告書

私たちは、社団法人協力隊を育てる会の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの事業年度の貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び収支計算書並びに業務執行の状況を監査いたしました。

監査の結果、上記の財務諸表等は法人の財産及び損益の状況を適法かつ正確に示しており、また、業務の状況は適切に行なわれていることをここにご報告いたします。

平成24年5月10日

社団法人協力隊を育てる会

監事

中村義人

監事

森高康介

## <第3号議案>

### 平成24年度 活動計画（案）

（平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで）

#### 《はじめに》

公益法人制度改革に伴い、当会は新たな法人として出発するため、定款をはじめとし運営体制等の見直しを行ないつつ準備を進めています。

日本の国際協力の在り方が見直される中で当会が果たすべき役割とは何か、これまでに様々な機会を設けて協議を重ねて参りました。そして、協力隊事業を支援・応援することは「次世代を担う人材を創出し、多様な価値観を尊重する平和で豊かな社会」を創ることであると改めて確認し、新たな定款の作成にあたりました。これは、表現は違えども 36 年前に当会設立に関わった関係者の思いでもあります。育てる会の目的・使命を心に留め以下の活動に取り組んで参ります。

#### 1. 会員の拡大と共通の意識づくり

前年度の事業継続を繰り返していく中で、忘れてしまいがちであった育てる会の果たすべき役割について役職員が再確認し、一丸となって会員拡大の働きかけを行います。常に「外向き」の意識を持ち、開発教育全国集会、訓練所視察会、視察の旅やスタディツアー、民間企業をはじめ諸団体と共同でのイベント開催、そして東日本大震災の復興支援活動等の業務を通じて、協力隊事業の理解と支援の輪を広げて参ります。

また、静岡県をはじめ未組織での組織設立を進め、全国の育てる会の代表者会議やブロック会議を通じて問題意識や情報を共有し、全国組織として共通の意識を築きながら活動を展開します。

#### 2. 自主事業強化による財政基盤の立て直し

組織運営の基盤である会費収入、自主事業収入の中核である視察の旅、育てる会カレンダー、育てる会ニュースの広告の強化を進めます。同時にこれまで継続してきた事業の充実を図り、コスト意識を持って事業に取り組んで参ります。

また、JICA からの受託事業が収入の大部分を占める財務体質を見直し、文部科学省、地方自治体等の入札案件に積極的に参加し、今後 3 年を目途に幅広い分野の受託事業の実施体制を構築する足掛かりの年とします。

#### 3. 一般社団法人への速やかな移行

新たな法人として定款と役員体制を整え、本年度中に一般社団法人としての移行手続きを完了させます。特別委員会を設け協議を重ねた結果、まずは一般社団となり豊かな発想と迅速性を持って事業を実施し財政基盤の強化に取り組みます。

以上のとおり課題は多く、特に財政改革は猶予を許されない喫緊の課題ではありますが、全国の組織の皆様と共に活動を展開して参りますので、会員の皆様におかれましては、より一層私たちの活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## <重点活動>

### I. 協力隊事業の理解を深め、支援の輪を広げる活動

#### 1. 全国 47 都道府県の組織化とともに既存の組織との連携強化を図る活動

##### (1) 全国 47 都道府県の組織化

協力隊の応援団として全国から支援の声を発することができるよう、未組織の 5 府県にて組織化を目指す。

県名	目標
静岡県	年内の組織設立
神奈川県	年内の設立準備会発足
和歌山県 奈良県 京都府	人脈の開拓、関係強化 年度内の設立準備会発足

##### (2) ブロック懇談会の開催

各組織の活性化との連帯強化を目的として、今年度は「開発教育全国集会 in 富山」と併催し、下記のとおり開催する。

###### <東海・北信越ブロック懇談会>

幹事県：富山県青年海外協力隊を育てる会

日 時：平成24年7月1日（日）

会 場：富山市内

テーマ：「地域の活性化における育てる会の役割」（仮題）

参加県：富山県、石川県、福井県、新潟県、長野県、駒ヶ根市、愛知県、三重県、岐阜県、滋賀県（予定）

##### (3) 全国育てる会代表者会議の開催

全国組織の代表者による会議を東西2ブロックに分け、訓練所視察会を併催。代表者はじめ各県財界人にも同行いただき、訓練所視察ならびに協力隊員との交流を通じて協力隊事業への理解と支援を呼び掛ける。

###### ①東ブロック代表者会議

時 期：平成24年10月（予定）

参加県：北海道、東北、甲信越、関東（予定）

概 要：福島県郡山市に集合し、JICA車両にて二本松訓練所を訪問。会議、訓練所視察、隊員との交流会等を行う。

###### ②西ブロック代表者会議

時 期：平成24年8月3日（金）～4日（土）

参加県：東海、北陸、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄（予定）

概 要：愛知県名古屋市に集合し、JICA車両にて駒ヶ根訓練所を訪問。会議、訓練所視察、

隊員との交流会等を行う。

- (4) 活動助成金の給付  
従来どおり各県組織の申請に基づいて給付する。

## 2. 会員の拡大

対策

- (1) 個人会員
- ・ 隊員の出発時期にあわせ家族交流会の実施
  - ・ 視察の旅、スタディツアー参加への働きかけ
  - ・ 帰国隊員への勧誘（帰国時オリエンテーションでの広報強化）
  - ・ 入会申込に係る事務手続きの簡略化（会費自動引落とし制度の導入）
  - ・ ホームページ改訂など広報活動の強化
- (2) 団体会員
- ・ 大学、図書館等の教育機関への働きかけ
- (3) 法人会員
- ・ 訓練所視察会、全国代表者会議等を通じた支援の呼びかけ

	平成23年度末の状況	平成24年度末までの目標
個人会員	884名	1,100名
団体会員	97団体	120団体
法人会員	41法人	45法人

### 3. 青年海外協力隊の理解を促進する活動

#### (1) 開発教育全国集会の開催

各県組織のネットワークや人脈を活かしながら、協力隊事業を通じた途上国理解と国際協力参加の意義を普及させる「市民への広報啓発」を目的とし、本年度は下記のとおり富山県組織と共催する。

#### <第22回開発教育全国集会 in 富山>

主 催：富山県青年海外協力隊を育てる会（社団との共催）

日 時：2012年6月30日（土）13：00～17：00

会 場：富山大学（富山市）

テーマ：「富山発！！地域ルネッサンスー地域が日本を変える」

北陸地方に根を張り活躍する「元気力」、地域から新たなアイデアを発信する「実践力」を紹介しながら「地域の力」について一般市民とともに考える。

内 容：第1部【基調講演】13：10～15：10

「高島平に未来はない」

講師：堀口吉四孝（高島平総研代表）

「NPOが社会を変える」

講師：惣万佳代子（NPO法人このゆびと一まれ理事長）

第2部【分科会】15：20～16：10

第1分科会：富山発国際協力プロジェクト：「氷見定置網」プロジェクト

第2分科会：協力隊富山県 OB 会（小島路生、中川博司、大門利雄）

第3分科会：協力隊石川県 OB 会（村上成人）

第4分科会：協力隊福井県 OB 会（藤井勇・和代）

第3部【総括集会】16:20～17:00

#### (2) 協力隊活動現地視察の旅の企画

隊員家族、関係者等を中心に活動現場を視察していただき、協力隊事業の理解者を増やし支援の輪を更に広げるため、今年度は以下に重点を置き実施する。また、自主事業収入の中核と位置づけ、財政基盤の安定化に繋げる。

##### ①安全管理を更に高めた企画

企画から帰国に至るまで現地 JICA 事務所と常に連絡を保つ他、政情不安・治安情勢・自然災害等のリスク情報を収集、リスクが高いと認められる場合は直前の中止も考慮する。

##### ②育てる会の持ち味を活かした企画

中継地での複数回乗り換えを必要とするなど、初心者にとって充実したフォローが必要なアフリカ、中南米等の国を中心に企画する。

##### ③旅行としての魅力を高めた企画

ホームページ、募集要項、案内の送付方法等の広報に工夫を凝らすとともに、行程に観光的要素も加える等、海外旅行としての魅力を高める。

(3) スタディツアーの開催

全国の育てる会の役員、会員、経済界、協力隊に興味を持つ若者等に参加を呼びかけ、隊員の活動を視察し、直接意見を交換することで、今後の支援の在り方についてともに考える機会とする。

時期：1～2月(予定)

日程：1週間程度

訪問国：アジアまたは近隣国

(4) 訓練所視察会

昨年度実施した駒ヶ根訓練所視察会が好評であったため、継続して実施する。訓練所の視察だけでなく、地元企業と連携したイベント（企業視察、経営者の講演等）を盛り込み魅力を高める。企業や大学、専門学校等と共同企画することで協力隊事業への理解促進を図り、支援の輪の拡大に繋げる。

①二本松訓練所視察会（4月21～22日）

主催：千葉県海外協力隊を育てる会

②駒ヶ根訓練所視察会（8月31～9月1日）

主催：日本外国語専門学校国際関係学科

③希望団体等があれば、訓練所と調整のうえ随時企画・実施する。

(5) 「協力隊を育てる会ニュース」の発行

全国育てる会と会員、派遣中隊員、帰国隊員、一般市民、法人団体とを結ぶ「育てる会活動の情報ツール」として以下に重点を置いて発行する（毎月4頁／約10,000部）。広告料収入を自主事業収入の中核と位置づけ、財政基盤の安定化に繋げる。

①青年海外協力隊をはじめとするJICAボランティア事業の動き

②全国育てる会組織の活動

③派遣中隊員、帰国隊員向けの支援情報

④法人団体、NPO、ボランティア団体等の情報

(6) 「協力隊を育てる会カレンダー」の制作

協力隊員及び関係者から写真を提供いただき、途上国や協力隊事業、当会の活動に関心を持っていただける広報媒体として引き続き育てる会カレンダーの制作・販売を行う。また、販売収入を自主事業収入の中核と位置づけ、財政基盤の安定化に繋げる。

テーマ：「花」「笑顔」「ファミリー」

印刷部数：15,000部

(7) 東日本大震災の支援活動に取り組む隊員関係者の記録制作

当会が設立した東日本大震災「小さなハート基金」をはじめ、復興支援に取り組んでいる協力隊関係者の活動を「協力隊経験の社会還元」の事例として紹介し、協力隊事業の理解促進のみならず、今後の災害等における緊急援助体制への提言として発行する。

(8) イベントの開催・参加

①「会員家族交流会」の開催

隊員の活動報告に途上国の実情やユニークなエピソードを交えるなど、留守家族だけでなく、一般の方にも魅力ある企画とし、会員拡大の機会とする。また、会員、留守家族、協力隊参

加を希望する学生などにボラティアスタッフとして協力を呼びかける。

開催回数：年4回程度（隊員の派遣時期に合わせて開催）

#### ②国際協力に関連するイベントへの参加

- ・第5回協力隊まつり  
日 時：4月21日（土）～22日（日）  
場 所：JICA地球ひろば
- ・「グローバルフェスタJAPAN2012」  
日 時：10月頃  
場 所：日比谷公園

#### ③その他

NGO、NPO、福祉団体等と連携を持ちながら文化的活動を開催し、広く一般の方に協力隊事業や育てる会の活動について理解を広げる機会を設ける。

#### (9) その他共同開催事業の実施

##### ①高木守道&小さなハートチャリティーゴルフ

日産労連、ぎふ美濃ゴルフ倶楽部と中日ドラゴンズ監督を冠としたチャリティーゴルフ大会を共同開催し、協力隊事業と当会の活動に理解を広げる。

日 時：未定  
場 所：ぎふ美濃ゴルフ倶楽部

## 4. 青年海外協力隊への支援活動

#### (1) 現職参加と帰国後の採用の働きかけ

全国の育てる会組織と連携しながら経営者団体等の会合の場を通して、協力隊員の人材リソースとしての有益性について啓発する。また、全国代表者会議（訓練所視察）に各県組織の人脈を利用して、地元経済界からも同席いただき、現職参加の促進と帰国隊員の採用を働きかける。

#### (2) 小さなハートプロジェクト

協力隊員の企画する本来業務以外のプロジェクトを支援することで、任国の人々の生活向上に寄与するだけでなく支援者と協力隊員・途上国との繋がりを強め、国際協力に対する気運を高めるため、今年度は以下に重点を置き実施する。

- ①単なる物資支援ではなく、ユニークな視点や地域を巻き込んだプロジェクトを取り上げる。
- ②育てる会ニュースやホームページでの広報及び報告を強化する。
- ③高校や大学など学生による支援を呼びかけ、協力隊事業や途上国に関心を持ってもらい、将来の国際協力を担う人材を育成する。

#### (3) 帰国隊員・青年支援プロジェクト

公益財団法人三菱UFJ国際財団の支援を受け、引き続き帰国隊員等による協力活動、調査・研究を支援するため、今年度は以下に重点を置き実施する。

- ①プロジェクト実施者と三菱UFJ国際財団との交流を積極的に働きかける。
- ②ホームページや育てる会ニュース、当会ネットワークを活用して、プロジェクトの周知に重点を置き、多様なプロジェクトを募る。

募集期間：平成24年7月～9月（予定）

支給金額：1案件につき上限500,000円（予定）

#### （4）馬場医療・福祉奨学金

医療・福祉分野への就職を希望する帰国隊員等を対象とし、返済義務を付して支援する。また、過去の支援者に対しては、計画どおりに返済が進んでいるか注視する。

年間支給額：100万円（50万円×原則2人）

## Ⅱ. 公益法人制度改革への対応

総会での承認を得て、平成24年度中に一般社団法人としての移行申請を行う。

- ①新定款の作成と承認
- ②新定款に基づき、役員体制の決定
- ③申請書類の作成
- ④移行申請

## Ⅲ. 財政基盤の強化

#### （1）会員の拡大

育てる会の活動理念を明確にし、会員の拡大を進める。会費収入を安定させ、組織の中核となる財政基盤を確立する。

#### （2）重点事業の収入拡大

当会の自主事業の中でも収入額の大きい以下の事業に重点を置く。

- ①協力隊活動現地視察の旅
- ②育てる会ニュースの広告掲載
- ③育てる会カレンダーの制作・販売

#### （3）一般寄付の呼び掛け

当会の活動の目的を明確に説明し、広く支援を呼びかける。

#### （4）新規受託事業の獲得

JICA、官公庁等の公示案件に対して、積極的に入札に参加する。

## <特別活動>

### 1. 東日本大震災「小さなハート基金」による支援活動

被災地で活動している協力隊 OBOG、全国の協力隊を育てる会（支援する会）や JICA 東北等からの情報に基づき、引き続き被災地の復興活動を支援する。

(1) 活動期間 平成 23 年～25 年度 (3 年間)

(2) 基金運用の考え方

- ①要請案件への対応は、迅速性を重視する。申請の締め切り期日、選考会議等の開催日程等は固定せず、選考委員及び事務局が連携してその可否について対応する。
- ②1 件につき 30 万円までを上限とする。
- ③事業費だけでなく、管理費についても支援の対象とし柔軟なサポートを行う。
- ④複数年にわたる継続的な支援も可能とする。
- ⑤プロジェクトの内容を公開し、案件ごとに支援者を募ることも検討する。

(3) 資金調達について

本年度は総額約 340 万円の支援体制を整える

・平成 23 年度

資金調達金額	4,562,836円
支援金額	3,141,725円
繰越金	1,421,111円

・平成 24 年度

繰越金	1,421,111円
資金調達目標	2,000,000円
総額	3,421,111円

(4) 広報の充実

当会のホームページ、育てる会ニュースでの広報を充実させ、より多くの方に理解と支援を訴える。

## <一般活動>

### 1. 組織の運営と強化

#### (1) 会議等の開催

##### ①第37回通常総会

5月24日(木)、於 JICA 地球ひろば講堂

##### ②理事会

第1回理事会 5月9日

第2回理事会 10月頃

第3回理事会 3月頃

※理事会は理事・監事のみで構成し、代表理事及び監事の議事録署名が必要条件

##### ③常任理事会

原則として毎月開催

##### ④委員会

支援・事業委員会、総務委員会を必要に応じて適宜開催する。

##### ⑤顧問・参与会議

貴重な経験を持つ顧問・参与から意見を伺う機会を新たに年2回設ける。

#### (2) 事務局の移転

JICA 地球ひろばの国庫返納に伴い、事務局を以下のとおり移転する。

移転先：東京都新宿区市谷本村町3番18号 エムズビル4階

移転日：平成24年7月21日(土)～22日(日)

始業日：平成24年7月23日(月)

#### (3) その他

小久保茂昭さんを送る会(予定)

日時：平成24年6月3日(日)

場所：日本青年館 中ホール

以上

<第4号議案>

平成24年度収支予算  
(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位:円)

科目	実施事業等会計							その他会計				法人会計	合計
	小さなハートプロジェクト事業	一般寄付金事業	開発教育事業	家族交流会事業	ステイティブ事業	共通	小計	寄付金事業	国際ボランティア育成・社会還元関連事業	共通	小計		
経常収益													
基本財産運用収入							0				0	0	0
入会金収入							0				0	210,000	210,000
会費収入							0				0	7,655,000	7,655,000
助成金収入							0	3,000,000			3,000,000	0	3,000,000
寄付金収入	3,000,000	2,500,000					5,500,000				0	0	5,500,000
研修交流会費収入				10,000			10,000		1,050,000		1,050,000	0	1,060,000
広告料収入							0		5,000,000		5,000,000	0	5,000,000
手数料収入							0		250,000		250,000	0	250,000
各県組織クロス発送手数料							0				0	4,464,000	4,464,000
カレンダー販売収入							0		6,150,000		6,150,000	0	6,150,000
図書販売収入							0		15,500		15,500	0	15,500
視察の旅研修会費収入					100,000		100,000		8,000,000		8,000,000	0	8,100,000
帰国隊員等支援受託収入							0		17,130,085		17,130,085	0	17,130,085
クロス編集業務受託収入							0		61,216,575		61,216,575	0	61,216,575
クロス会員差込							0		976,500		976,500	0	976,500
受取利息							0				0	8,000	8,000
繰越金収入												8,465,994	8,465,994
経常収益合計	3,000,000	2,500,000	0	10,000	100,000	0	5,610,000	3,000,000	99,788,660	0	102,788,660	20,802,994	129,201,654
事業費													
人件費	284,353	284,353	710,883	995,237	568,707		2,843,533	284,353	9,952,365	1,137,413	11,374,132		14,217,665
交通費							0			315,000	315,000	0	315,000
小さなハート支援費	2,700,000						2,700,000				0	0	2,700,000
震災復興支援費		2,000,000					2,000,000				0	0	2,000,000
OB支援費							0	2,700,000			2,700,000	0	2,700,000
支援事業事務費	200,000						200,000				0	0	200,000
育てる会ニュース発行費		295,200					295,200		2,656,800		2,656,800	0	2,952,000
広報資料作成費		46,000					46,000			414,000	414,000	0	460,000
インターネット関連費							0			762,600	762,600	0	762,600
研修交流会費				280,000			280,000		750,000		750,000	0	1,030,000
開発教育活動費			400,000				400,000				0	0	400,000
カレンダー作成、発送費		385,000					385,000		3,465,000		3,465,000	0	3,850,000
広告宣伝掲載費							0			157,500	157,500	0	157,500
組織対策国内旅費							0			451,200	451,200	0	400,000
各県代表者会議費							0			1,825,000	1,825,000	0	1,825,000
各県助成金							0			2,580,000	2,580,000	0	2,580,000
組織対策費							0			1,428,800	1,428,800	0	1,530,000
ブロック懇談会							0			400,000	400,000	0	400,000
クロス発送費							0		4,416,000		4,416,000	0	4,416,000
視察の旅事業					425,000		425,000		2,759,500		2,759,500	0	3,184,500
隊員支援受託業務人件費							0		7,580,704		7,580,704	0	7,580,704
編集業務受託人件費							0		19,617,188		19,617,188	0	19,617,188
クロス編集用PCリース・保守料							0		604,800		604,800	0	604,800
クロス編集レアウト料							0		5,426,250		5,426,250	0	5,426,250
クロス校正等外注分							0		1,100,000		1,100,000	0	1,100,000
クロス印刷製本・原稿料等支出									16,146,316		16,146,316		16,146,316
帰国隊員等支援受託支出									0		0		0
受託事業事務経費							0		420,000		420,000	0	420,000
事業費合計	3,184,353	3,010,553	1,110,883	1,275,237	993,707	0	9,574,733	2,984,353	74,894,923	9,471,513	87,350,789	0	96,975,522
管理費													
人件費							0				0	10,353,889	10,353,889
交通費							0				0	135,000	135,000
会議費							0				0	821,000	821,000
消耗品費							0				0	1,425,000	1,425,000
通信運搬費							0				0	1,837,400	1,837,400
借料損料							0				0	6,015,060	6,015,060
負担費							0				0	69,800	69,800
支払手数料							0				0	790,000	790,000
保守料							0				0	1,934,500	1,934,500
租税公課							0				0	3,500,000	3,500,000
広尾移転費							0				0	5,000,000	5,000,000
雑費							0				0	344,483	344,483
管理費合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	32,226,132	32,226,132
経常費用合計	3,184,353	3,010,553	1,110,883	1,275,237	993,707	0	9,574,733	2,984,353	74,894,923	9,471,513	87,350,789	32,226,132	129,201,654
経常利益	△ 184,353	△ 510,553	△ 1,110,883	△ 1,265,237	△ 893,707	0	△ 3,964,733	15,647	24,893,737	△ 9,471,513	15,437,871	△ 11,423,138	0